

研究所ニュース No.65

# りべらしおん



「りべらしおん」は、フランス語で「解放」という意味です。

発行：公益社団法人 福岡県人権研究所

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50 福岡県吉塚合同庁舎内 TEL 092-645-0388 FAX 092-645-0387

Mail: info@f-jinken.com URL: http://www.f-jinken.com/



定例研究会で講演する野見山美佐さん

定例研究会兼ジェンダー部会&外国人部会

「性的少数者のひとりとして」  
「イギリスの人種関係法の制定過程について」

二〇一四年六月一四日(土) 福岡県人権啓発情報センター

六月一四日(日)、定例研究会兼ジェンダー部会と外国人部会が、福岡県人権情報啓発センターで行われた。

はじめに、「性的少数者のひとりとして」性的少数者の抱える問題と今後の課題」と題して中間市在住の野見山美佐さんが講演した。

野見山さんは、「子どもの頃から性別について違和感を感じていた。二〇〇二年から自分らしく生きることを決意し社会的性別を女性へ変えた」という体験や、性的な違和感で悩みを抱える子どもたちの現状など、データをもとに話された。

講演後、ジェンダー部会長の園田久子さんが謝辞を述べ、後半の外国人部会では、山田澄子さんが、「イギリスの人種関係法の制定過程について」法律制定への一関わり方」と題した報告をした。

一九六五年制定の人種差別を禁じた「人種関係法」や一九七六年に「人種平等委員会」が設置されたイギリスの状況を、山田さん自身が行った人種政策担当者へのインタビューなどを交えて紹介した。

参加者の感想

(野見山さんの講演)

○当事者による指摘だけに身にしみました。"一人一人に目を向けてほしい"との言葉、よく理解できました。

○社会や学校での性的少数者に対する偏見・差別がある中で、生きにくさを感じている人たちが多くいる現実や実態を野見山さんの話から感じることが出来ました。また「性同一性障害」の「障害」という言葉に違和感を感じていましたが、「性的違和」と言葉が変わったこと、学校での調査が実施され、少しずつまわりの見方も変わってきているのではと思えました。当事者として感じられることを一緒に学ぶことによって、さらに私たちの意識が変わっていけばと思います。

(山田さんの報告)

○現代社会(日本)との比較など、すごく興味のある内容でした。

○イギリスに於ける人種差別の禁止に関することを日本社会に当てはめながらの講演でした。ありがとうございました。ありがとうございました。



イギリスの法政策を報告する  
山田澄子さん(外国人部会長)

第三回教育部会報告

六月二十八日(土) コロンセンター

第三回教育部会(6/28(土)福岡市コロンセンター)は、山田明さん(会員/高校教員)の報告「教育の目的」を問い直す市民性教育を切り口に」をもとに、一九七〇年代から現在に至る教育現象を総括しつつ、市民性教育としての人権教育、サービスマニヤ、開かれた学校、開かれた学び等の可能性について議論しました。十一月二十九日(土)には山田育男さんを講師に定例研究会「出口から問い直す進路保障・キャリア教育」自立支援の現場から」を予定しています。ますます充実の教育部会に、是非ご参加を。

第三回九州地区部落解放史  
研究集会開催

八月二日(土)三日(日)

八月二日(土)三日(日)、佐賀市文化会館で行われた第三回九州地区部落解放史研究集会は、「被差別民の多様性」に焦点をあてた論議が行われた。会場には九州各地から研究者や教員が集い、二日目は、研究所会員の竹森健二郎さんが、「近世・近代移行期における被差別部落の多様性」と題して報告した。

部落解放同盟第六五回定期大会  
参加報告

七月三〇日(水)

七月三〇日(水)、会場の福岡市立早良市民センターには朝九時半に到着した。この会場は九月二十八日(日)に研究所の四〇周年集会在開催される場所でもある。控室には組坂委員長、吉岡書記長を含めて主催者、福岡市企業同推の待井弘道会長(西部ガス)や福岡県同宗連の千々和英博副会長(浄土宗)などの来賓が来られていた。その後、国会・県議員、秘書の方々が続々と来られた。

一〇時、水平社宣言が読み上げられ、解放歌を全員起立で斉唱、松本龍興連顧問の開会の挨拶が始まった。松本顧問は「水平社以来九二年続いている大衆運動は他にない。社会状況が急速に右傾化している中、真中に戻さなくてはならない」と開会宣言した。続いて、組坂県連委員長が、「国権主義の台頭に国際人権の視点から反対し、反人権主義・差別排外主義を許さない運動を作り上げる大事な大会である」と述べ、フランスの国際会議で解放歌が歌われたことを紹介した。

その後、来賓代表の挨拶となり、西島藤彦新全国書記長(京都府)が福岡の伝統に敬意と連帯を表す挨拶があった。次に、小川知事海外研修のため山崎副知事が「人権を確立する法律の必要性」などを述べ、県会議長(代理)

思った。

「ある精肉店のはなし」や加古川の屠場のドキュメンタリーもご覧になったという畠山さんに「穢れ」について質問したところ、おそらく「穢れ」というのは「死への恐れ」みたいなものではないかと話された。

畠山さんは、命のやりとりというのは、実際に現場に立ち会わないと分からないことなので、実際に体験してどう感じるか、自分で体感してほしいという。「自分で獲ったお肉の匂いが美味しい」という人もいれば、「自分で獲らばけけないのもう肉は食べない」という人もいるそうで、同じ体験でもどう感じるかは人それぞれで、それを感じてほしいのとどだった。

太古の昔ならば狩猟採集は誰もが生きるために当たり前にやっていた営みであり、それがいつからか一部の人の専業になり、多くの人の手の届かないもの、見えないものになってしまった。それをもう一度自分の手で取り戻そうとしているのが、畠山さんの試みなのだろう。

最後に私は畠山さんに「多くの人が畠山さんのように原始的な生活に回帰すれば、環境問題は解決できると思われませんか」という質問をした。畠山さんは「自分は何かのためとか、そんな大それたことを思っているわけではなく、この世界は適材適所で、パズルのピースのように、それぞれの人が自分の

会員の声

○狩猟と屠畜について考える

—畠山千春さんと李由紀さん—

や、国会議員の各党挨拶があり、山本幸三自民党代表はベトナム、カンボジア訪問体験と戦争・差別を許さない方針を述べた。また民主党の大久保勉議員は三名の国会議員を紹介し、松本治一郎先生の流れを強調した。

午後から討議、役員改選があり、新執行委員(再選)が決まった。最後に、「格差拡大大社会での人権と平和の危機の中、ヘイトスピーチやネット差別などを許さず、人権侵害救済の法律や制度を確立する」ことが大会宣言として採択された。この数年、厳しい状況の中で、緊張感のある大会であった。

森山沾一(福岡県人権研究所理事長)

二〇一四年四月一八日、D&DEPARTMENT FUKUOKAで、畠山千春さん(二七)の『わたし、解体はじめました—狩猟女子の暮らしづくり—』出版記念トークイベントが行われた。畠山さんは明るくて素敵な方だった。これまで肉の裏側のことはタブー視されて語られてこなかったこと、誰もが食べているのに、誰も関係ないテーマのようになっていくこと

に疑問を持ち、三・一の大震災で食料の買い占めが起きたことをきっかけに、畠山さんは自分の手で暮らしを作る「狩猟生活」を始めた。実際に狩猟で山に入ると、自分も大自らの激しい生存競争の中の一部であり、これまで文明に守られてきた自身の小ささを知ったという。自分で獲ったもの以外は食べない「身の丈にあった暮らし」を実践している。

畠山さんが育てている烏骨鶏は、少しでも管理を怠ると野生のネコに食べられてしまつたこともあり、そうした自力だけでは生きていけない、人が守り育てなければならぬ動物に比べ、大自然の中で自由に動き回って生きていく野生のイノシシや野草のほうが生命力が高いという。畠山さんは「より生命力が高いものと同化していきたい」と語った。その話が一番印象に残った。

以前、服部英雄先生が『部落解放史の最前線』の中で、「粉河寺縁起」図の解説で「野生動物を捕って食べる人は賤視されていなかった」と書かれていた。家畜と野生動物の違いは何なのか、と疑問に思っていたところ、上杉聰先生が『リベラシオン』一五一号に書かれた「中世河原者の庭づくりについて」の中で、「穢れは閉鎖空間でうつると考えられ、人間が困っている家畜は閉鎖空間であるため穢れとされ、野生動物は解放空間にあるため、穢れとされなかった」と書かれており、今回の畠山さんのお話にも通ずるところがあると

得意なことをやっていけばいいと思う」と答えた。

畠山さんのお話は、狩猟・解体・革なめし・革細工の他にも、ミツバチの社会性、古民家のオンドルづくりなど、多岐にわたっており大変興味深かった。今後は養蜂にも挑戦する予定で、昆虫ワールドに入っていくかもしれないとのことだった。

トークイベントでは、事前申込者からの質問に答えるコーナーで「手を見せていただけますか」という質問があったが、これは急用で参加できなかった研究所会員の李由紀さん(屠畜場を研究している九大院生)の質問だろうと思った。李さんが私に送ってくれるフィールド調査レポートには屠畜場で働く人々の大きくてがっしりとした手の写真が入っていたからだ。しかし畠山さんの手は指が細く華奢な手であった。猟期最後のイノシシ狩りをしていた少し前までは、手にナイフどころがあったそうだが、今はきれいになくなっていく。機会があれば、ぜひ李さんにも畠山さんと会ってほしいと願っていたが、その機会はすぐにおとされた。

七月十二日あすみにて、いぬねこカウンスル福岡・OPENER・「ある精肉店のはなし」自主上映会。福岡主催による「ある精肉店の話」上映会×畠山千春さんトークイベントにゲストとして李さんが招かれ、二人の初対談が実現した。映画の内容については以前の

ニュースで紹介したので、ここでは割愛するが、映画上映後のトークイベントで、畠山さん(映画を見て)牛が屠畜場まで自分で歩いていく姿に驚いた。自分は狩りをする瞬間までその動物には会うことはない。野生は人を敵とみなして警戒している、お互い常に緊張感がある。しかし品種改良された家畜は人の手がないと生きられず、人も消化に良いものしか食べられない身体になっている」と語った。「福岡市の食肉市場によると、霜降りの高価な牛ほど、六割が肝臓病なんですね。高カロリーですぐに育つものを食べさせられてきたり、無理矢理脂肪を注入されたり。畠山さんは狩猟を始められて、食べ物の好みは変わりましたか?」と李さん。「野生動物は死ぬ間にその性格が出てくる。その過程一つひとつに立ち会うことで、自分の身体にも影響するだろう。私は自然の中で生きてきたものと同化していききたい。野生はお互いに命をかけて闘って勝ち取るもの。家畜は大切に育てて食べるもの。どっちが好き?と問われれば、それは人それぞれの答えがあつて良いと思う。これはあくまで自分の好みだが、私は家畜よりも野生の方が美味しいと思う。ドングリなど、その動物が食べてきたものが、脂の味に出てくる。サラサラ感が全然違う」と答えた。

さらに李さんは、「解体するときの動物との精神的距離」について尋ねた。畠山さんは「屠畜場と違って、イノシシ、鹿、ウサギ、アナツづいてこれまた唐突ですが「宗像八・六平和の集い」に参加して気づいたことです。今度は一〇五という数字です。開会の六時になつても会場は空席が目立ち、その後ぼちぼちと一〇〇人ぐらいの数になりました。平和布芝居がはじまり講師の山川さんの講演が山場にさしかかったとき前の方に座っていた私は後ろを振り返りみて驚きました。「いつも見飽きた顔」といつては失礼ですが、教職員組合の定期大会に参加している「見慣れた顔」が目に入りました。その「いつもの人たち」がそれぞれ連れ合い、子ども、職場の仲間とか近所の人とかをつれて参加していることに気づいたからです。そのポイントになつている人は「いつも支部大会に参加し」「いつも八・六平和の集い参加し」ている一〇五人です。この見飽きたオールウェイズ(Always)の一〇五人の力は絶大です。彼らはきつと宗像地区「同和」教育研究会集会にも参加する人たちです。

つづいてさらに唐突ですが、昨年、研究会のPRに、公益社団法人福岡県人権研究所に会員へのチラシ配布のお礼かたがたチケット購入依頼・後援依頼のため訪問しました。事務長の谷口先生は不在でしたが事務の女性の方が「私昨年までは高校の体育祭で行けませんでした。卒業したので今年も参加できるの必す行きます」とうれい言葉が返ってきました。私は心の中で「一人ふえたよ」とガッツポーズをしました。

宗像地区「同和」教育研究会実行委員 高原昇

○人権を営業する

田中美帆(事務局)

唐突ですが、昨年私たち児童生徒支援がみんなで開催した第六回全国人権・同和教育研究会の二日目の午後の話から始めます。それは特別講演「岡山県北の部落解放反対騒擾と汚染一揆」(上杉聡さん)という非常に難しい内容だったので、おもしろかったのは、一揆や騒擾を差別と反差別そして中間層の力関係から読み解くという上杉さんの見方考え方です。

彼はこれらをラグビーボールにとえます。楕円形の両極の10%をそれぞれ差別層と反差別層に残りの膨らんだ中央部を80%の中間層になぞらえます。



革命とか一揆とか騒擾もそうですが、その動きを決めるのは80%の中間層の動向が決定するという事です。汚染一揆の話から10%の力と数の大切さということを学ばせられた特別講演でした。

グマなどいろんな動物を解体するので、全部同じ気持ちではできない。ウサギの時が一番シヨックが大きかった。その他、人間と共通するものを持つている動物「アライグマなど、五本指で体が猫背の人に似ており、しぐさも人間に似ている。しかし畑を荒らす外来種で移動禁止のため、捕まえてもその場で埋めてしまうことが多い。何のために生まれてきたのか?と考えてしまう。食べないものを獲るのには抵抗がある。普段は自分でくりくり毘を作つて自分で獲つたものしか解体しないので、うしろめたさはない。最初から最後まで自分の責任でできるから。もし、他人が獲つてきたものを、殺すのだけ頼まれたら抵抗がある」と答えた。

最後に、李さんの悲願でもあつた、畠山さんの手を見せてもらった。あまりに細くて華奢な女性の手であることに、李さんも驚いていた。七月末に佐世保市で起きた女子高校生殺害事件で、加害生徒が小動物の解体をしていたことが、殺人の前兆であつたかのよう報道がなされて



屠畜や狩猟について語り合う李由紀さん(左)と畠山千春さん

そこで私のラグビーボールの10%の皮算用は一〇六人になりました。三〇〇人集まれば大成功です。こうして私の「人権の営業」はさらに続きます。みなさん、宗像地区「同和」教育研究会に参加しましょう。

宗像地区「同和」教育研究会実行委員 高原昇

日時：九月七日(日) 一〇時開会

場所：日本赤十字九州国際看護大学

全体会：10:30～12:00

山口祐二さん(チャイルドラインふくおか事務局)

「希望格差社会の中で子どもたちはどのように生きていくのか」子どもたちに関わるわたしたち大人に何が出来るか

分科会1：13:00～15:00

谷口研二さん(公社)福岡県人権研究所事務局長

「同和教育って何?子どもたちにどう教えたいの?」子どもたちの現実から人権課題に気づき、そこから教材化する取組を

分科会2：13:00～15:00

百田英子さん(NPO法人スペース deCUNZ(ぐんぐん)主宰)

「子どもの力を生かす居場所づくりと大人たちの役割」子どもたちの実態と子どもの権利条例を生かした取組

参加費：500円(大学生以下 無料)

主催：宗像地区「同和」教育研究会実行委員会

問合せ：090-1190-8166(高原)

### （各地の取り組み） 福山市人権平和資料館について 福山市人権平和資料館 出柄文男

今号では、広島県の福山市人権平和資料館について、同館の出柄文男さんに紹介していただきます。

#### ■「人間環境都市」の実現をめざして

福山市は、備後地方の中核都市として「人間環境都市」の実現をめざしています。

その長い歴史と伝統の中で、私たちは、一九四五年八月八日の福山大空襲によって、平和の大切さを身をもって学びました。そして、苦難の中で、全市民が戦災の惨禍を銘記して、戦後復興に取り組んできました。

一九五四年の第五福竜丸事件をきっかけに発足した「原水爆禁止運動福山推進連盟」は福山市長を会長に多くの民主団体の参加を得て、今日幅広い平和の活動を続けています。

一方、「水乎社」の伝統を受け継ぐ同和地区の人々の「人間解放」を求める熱い思いと運動は、一九六五年に「同和对策審議会答申」を実現しました。そして、一九七二年には「福山市同和对策審議会答申」が出され、同和問題の解決を市政の重点施策として取り組み、一九七九年からは人権意識を高めるための市民総学習運動が進められています。

こうした積み重ねを受けて、福山市は一九八四年に「平和非核都市」を宣言するとともに、一九八六年十二月議会において、福山市

長期総合計画基本構想の中で、「恒久平和の維持と基本的人権の尊重」を「都市づくりの基本理念」として定めています。

福山市の歴史と基本施策をふまえて建設された福山市人権平和資料館は、人権・平和資料の展示を通して、同和問題の解決をはじめとする人権の確立と恒久平和の実現が、私たちの生活にとって最も基本となる大切なことであることを、多くの市民の皆様に理解していただくことを目的としています。

#### ■基本理念

資料館の趣旨・目的を、福山市の戦後の歩みと市政の基本をふまえて、簡単に表現していますが、これは次のような視点に基づいています。

I. 「人類社会の全ての構成員の固有の尊厳と平等で譲ることのできない権利を承認することは、世界における自由・正義及び平和の基礎である」として、「人権を確立することが世界平和への確かな道」であることを明らかにした世界人権宣言が示した国際的な人権尊重の潮流を基礎とする。

II. 日本国憲法の「平和主義」と「基本的人権の尊重」の精神を具体化する。

III. 一九六六年に制定され、一九八三年に改定された「福山市民憲章」の次の二項について、より市民共通の規範となることをめざす。

\*文化を育て、健康で平和な社会を築きましょう。

\*人権を尊重し、差別のない人間関係をつくりましょう。

IV. 一九八四年に多くの市民の要求署名をふまえて、市議会が採択された「平和非核都市福山宣言」が示す平和を願う市民の総意に込める。

\*人権の尊重と平和実現は表裏一体である。

\*戦争は、最も重大な人権侵害である。

\*人権尊重は、平和の基本的条件である。

V. 一九八六年十二月市議会が決議された「福山市の都市づくりの基本理念」である

\*生命の尊厳と人類の共存を基本とする。

\*何人も侵すことのできない永久の権利である基本的な人権の尊重を基礎とする。

#### ■福山市人権平和資料館の概要

鉄筋コンクリート二階建て、延べ床面積は七六二㎡です。一階は福山大空襲の実相を中心とした平和展示室と事務室、そして、市民の皆さんからお寄せいただいた貴重な資料を大切に保存する収蔵庫を備えています。

二階は、同和問題をテーマとした人権展示室と視聴覚機器を完備した研修室があります。研修室は、企画展示もできるように設計されています。

この資料館は、市民の皆さんに展示物などを通じて、



人権と平和の大切さについて考えていただくことを目的としています。

#### ■展示紹介（現在）

福山市人権平和資料館は、JR福山駅北側の福山城公園の一角に、「人権と平和は一体である」という理念に基づき設立され、一九九四年八月三〇日に開館しました。

現在、この一角は人権平和資料館をはじめとして、県立歴史博物館、ふくやま美術館、ふくやま文学館、福山城博物館が並ぶ「ふくやま文化ゾーン」となっています。

常設展示は、戦争の悲惨さを訴える平和部門（一階）と「部落の歴史と解放へのあゆみ」をテーマにした人権部門（二階）で構成されています。

#### ■シンボルマーク



入り口正面のシンボルマークは、「人権を尊重することが世界平和の基礎」であることを明らかにした世界人権宣言の四〇周年を記念してつくられたものです。

外側の輪はオリーブの葉をかたちどったものです。ヨーロッパでは古くから「オリーブの葉」は「平和と実り」を表すものとされており、国連のマークは、この輪の中に地球が描かれています。輪の中の炎は「いのち」を表しており、人権宣言がめざす「世界平和と生命の尊厳」を象徴する

ものとなっています。

#### 【一階平和部門】福山大空襲の実相と戦時下のくらし

□人権平和へのあゆみ

□世界人権宣言・平和非核都市福山宣言

□福山大空襲の実相

被災状況・予告された空襲

アメリカ軍資料に見る福山大空襲

B29・もう一つの福山大空襲・実物焼夷弾

福山大空襲の写真・被災地図・市民の描いた福山大空襲の絵

福山市戦災死没者慰霊の像（母子三人像）



（母子三人像）

□戦時下のくらしと教育

しのびよる飢えと欠乏・少年飛行兵・軍事教練・女子勤労挺身隊

□戦時下の学校生活・集団疎開の子どもたち

□再びくり返すまいこのあやまち

□平和を求めて・戦争のない平和なくらし・世界平和へ

□【二階人権部門】部落の歴史と解放のあゆみ

□部落の歴史と解放の歩み

□水乎社宣言・憲法第十四条・同和对策審議会答申・被差別部落のおこり

民衆のくらしと立ち上がり・戦後の解放運動・解放運動資料

□プライバシーを守る、就職の機会均等をめざして

□結婚差別解消への展望・仕事・技・伝統文化

□人権文化が根づいた社会をめざして

文字を取り戻す・文化を育む・出会い・ふれあい

人権学習から川の浄化運動へ・人権標語

身元調査お断り・住民参加型学習

福山市がめざす人権施策とその具体化

□豊かな明日を求めて

福山市民憲章・人間は尊い



（可搬式消防ポンプを押す人たち）

#### ■福山市人権平和資料館

□住所／広島県福山市丸之内一―一―

（JR福山駅北口より、北西へ600m）

□電話／084-1924-16789

□開館時間／9時30分～5時

□休館日／毎週月曜、年末年始

□入館料／100円、障害者・市内在住六五歳以上は無料

お知らせ

○福岡部落史研究会(公社)福岡県人権研究所の前身) 設立40周年記念

▽テーマ 「人権確立社会をめざす多くのの人々との出会い

▽会場 福岡市立早良市民センター

▽内容 「国際人権の潮流」友永健三さん(弁護士)

▽内容 「私と母と狭山」中山武敏さん(弁護士)

▽内容 「エンパワメントとダイバーシティ多様性を尊重する社会へ」森田ゆりさん(エン

▽内容 「歌と演奏」願児我楽夢

▽内容 「パワメントセンター主宰」

▽内容 「資料代含」当日一二〇〇円

▽内容 前売り一〇〇〇円、研究所会員五〇〇円

○ハートフルフェスタ福岡二〇一四

▽会場 福岡市役所西側ふれあい広場

▽内容 交流ブース、ふれあいマーケットなど

▽内容 (福岡県人権研究所のブース「海外人権ツアー

▽内容 報告スリランカの人と暮らし

▽内容 ハートフルフェスタ福岡実行委員会

○人権啓発担当者のつどい兼定例研究会

▽講師 「障害者と人権」古川克介さん

▽会場 (自立支援生活センター久留米理事長)

▽内容 福岡市立西市民センター 視聴覚室

▽内容 (福岡市営地下鉄「姪浜駅」南口徒歩五分

▽内容 五〇〇円(資料代含)

▽内容 (公社)福岡県人権研究所 啓発部会

研/究/所/日/誌/か/ら (2014.6.21~2014.8.20)

- 6月
- 23(月) 事務局会 公益社団法人関係会計事務講習  
歴史学習プロジェクト(須恵町アザレアホール)
- 24(火) 第46回松本・井元研究会
- 25(水) 『原口顕雄著作集』編集委員会
- 7月
- 6(日) 執行理事会
- 7(月) 筑前竹槍一揆ウォーク打合せ会、海外人権スタディツアー企画部会
- 11(金) 福岡市企業同推協総会・講演会(福岡市都久志会館)
- 12(土) 部落史部会(福岡市ココロンセンター)
- 14(月) 事務局会
- 19(土) 企業・私学関係理事打合せ会  
県人権啓発情報センター「県民啓発講座」(春日市クローバープラザ)
- 22(火) 海外人権スタディツアー企画部会
- 25(金) 第47回松本・井元研究会
- 26(土) 教育部会(福岡市ココロンセンター 報告;山田明「『教育の目的』を問い直すー市民性教育を切り口に)
- 27(日) 海外人権スタディツアー事前学習会(福岡市ココロンセンター)
- 28(月) 事務局会
- 29(火) 歴史学習プロジェクト(須恵町アザレアホール)
- 30(水) 部落解放同盟福岡県連合会定期総会(福岡市早良市民センター)
- 8月
- 2(土) 九州地区部落解放史研究集会(佐賀市文化会館)
- 3(日) 同 2日目
- 5(火) 福岡県人権・同和教育夏期講座(福岡市アクロス) 海外人権スタディツアー企画部会  
編集委員会
- 11(月) 事務局会
- 12(火) 閉局(~8/15)
- 17(日) 筑前竹槍一揆ウォークin福津(福津市畦町公民館)
- 18(月) 海外人権スタディツアー(~8/25スリランカ)

(※敬称略、なお住民意識調査等の受託事業に関する調整・事務、研究・研修や教育・啓発に関する相談業務や研修会等の企画、講師依頼への対応等についても省略しています。)